

1. 略歴

- 1997年3月 東京大学文学部思想文化学科宗教学宗教史学専修課程 卒業
- 1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野修士課程 入学
- 1999年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野修士課程 修了
- 1999年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程 進学
- 2001年4月 日本学術振興会特別研究員DC2（東京大学、至2003年3月）
- 2002年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程
単位取得退学
- 2003年4月 日本学術振興会特別研究員PD（九州大学、至2004年3月）
- 2004年4月 鹿児島大学法文学部人文学科助教授
- 2007年4月 鹿児島大学法文学部人文学科准教授
- 2012年9月 ハワイ大学マノア校歴史学科客員研究員・米国内務省東西センター太平洋諸島開発プログラム
客員研究員（フルブライト奨学金研究員プログラム、至2013年2月）
- 2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

宗教史学・宗教学人類学・宗教民俗学・慰霊・死者儀礼の継承、日本と太平洋域の宗教文化

主な研究活動は大きく以下の3つのテーマ群についてである。

(A)戦争や災害による犠牲者に対する態度、(B)現代の地域社会における宗教生活と日常生活の関係性、(C)島嶼と半島におけるダイナミックな人的交流と宗教接触

b 研究課題

具体的な研究課題は以下のとおりである。

(1) 「(A)戦争や災害による犠牲者に対する態度」に関わる研究

遺骨収集・戦地慰霊において、遺族や戦友といった戦死者を取り巻く直接的関係者ばかりではなく、宗教者・旅行者・行政といった第三者がどのように関与するかをめぐり、次世代へどのように継承されようとしているかをめぐり、調査・考察を行っている。その際、日本人による遺骨収集や戦地慰霊の状況と米豪や太平洋諸島の状況との国際比較、次世代継承に関する宗教体験の伝承や宗教組織の継承などとの比較、戦地慰霊に関する聖地巡礼との比較を行っている。

(2) 「(B)近現代の地域社会における宗教生活と日常生活の関係性」に関わる研究

九州をおもなフィールドとして、近現代の地域社会のなかで人びとがどのような信仰実践や宗教的行為を行ったかについて、そうした実践を支える日常生活とともに調査・考察している。とりわけ、民俗社会を基盤とした地域が、戦争や公害、自然災害などの歴史的経験からのレジリエンス（回復力）をどのように発揮しているかということについて、博士論文で取り上げた長崎の原爆慰霊を視野に入れながら考察しようとしている。

(3) 「(C) 島嶼と半島におけるダイナミックな人的交流と宗教接触」に関わる研究

奄美群島とミクロネシア地域を主な対象としながら、大航海時代以降のヨーロッパ人のグローバルな移動に端を発する人的な交流の活発化のなかで宗教的接触状況が地域の宗教性のあり方にどのような影響を及ぼしているのかについて比較宗教的な理解を目指している。

c 概要と自己評価

(1)は博士論文の研究課題の延長上にあるものだが、対象地域の拡大と継承という宗教学的テーマへの深化を図りつつある状況である。2010～12年度に代表を務めた科研費基盤研究と、2012年度に滞在したハワイ大学での研究によって研究内容も研究ネットワークもさらなる展望が開けつつある。

(2)(3)はさまざまな研究プロジェクトへの関わりから徐々に輪郭が浮かびつつある、ポスト博士論文の研究テーマであるが、現状としては単発のモノグラフや翻訳の作業にとどまっている。しかし将来的には九州を窓口としてアジア・太平洋域を視野に入れた日本宗教史の構想につながる研究であるという認識で進めている。

d 主要業績

(1) 論文

- 西村明、「隔たりへの感受性—遺骨収集・戦地慰霊への宗教学的アプローチ」、『文化交流研究：東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』、27、pp.27-36、2014
- 西村明、「葬送儀礼への第三者の関与—参入と介入の視点から」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、第191集、299-314頁、2015
- 西村明、「船と戦争—記憶の洋上モデルのために」、『思想』、no.1096、51-66頁、2015.8
- 西村明「唐人町—城下のマチを活かす」、『新修福岡市史 民俗編二』、369-395頁、2015
- 財部めぐみ・西村明「奄美の宗教について—島の精神的動態」高宮広土・河合 溪・桑原季雄編『鹿児島島の島々—文化と社会・産業・自然』、南方新社、31-41頁、2016

(2) 書評

- 志賀子子、『(神)と(鬼)の間—中国東南部における無縁死者の埋葬と祭祀』、風響社、『宗教と社会』、第20号、pp.98-101、2014.6
- 石川明人、『戦場の宗教、軍人の信仰』、八千代出版、『宗教研究』、381号、pp.274-278、2014.12
- 今井昭彦、『反政府軍戦没者の慰霊』、御茶の水書房、『宗教と社会』、第20号、81-84頁、2015.6

(3) 学会発表

- 国内、西村明、「戦地慰霊・遺骨収集をめぐるパフォーマンス・メモリー—金谷安夫氏の8ミリ作品「姿なき墓標」(テニアン、昭和51年)、「草むす屍」(サイパン、昭和59年)の上映とともに」、『宗教と社会』学会研究プロジェクト「戦争死者慰霊の関与と継承」研究会第6回研究会・國學院大學研究開発推進センター研究事業「昭和前期における神道・国学と社会」、國學院大學学術メディアセンター棟会議室06、2014.3.16
- 国内、西村明、「橋を架ける—パフォーマンスな記憶の比較論」、西日本宗教学会第四回学術大会、川辺岩屋公園清流の杜(南九州市川辺町清水3882 岩屋公園キャンプ場内)、2014.3.30
- 国際、Akira Nishimura, “Mapping Minamata on Kyushu island on the geopolitical perspective and the tracing-layer movements,” International Union of Anthropological and Ethnological Science、幕張メッセ、2014.5.16
- 国内、西村明、「越境する『導師』たち—戦跡慰霊に対する仏教者の関わりについて」、龍谷大学アジア仏教文化研究センター(Barc)2014年度第2回国内シンポジウム「アジア仏教の現在VI 仏教と死者のゆくえ—近現代の日本からの展望—」、龍谷大学、2014.5.31
- 国内、西村明、「戦争死者の慰霊とパフォーマンスな記憶—モニュメント・写真・仏像」、国立大学法人総合研究大学院大学学融合研究事業・公開セミナー「負の文化遺産についてあらためて考える」、国立民族学博物館、2014.7.26
- 国内、西村明、「ポスト九学会連合の奄美調査の可能性」、日本宗教学会第73回学術大会、同志社大学、2014.9.13
- 海外、Akira Nishimura, “Considering Oceanic Mode of Memory” The 6th International Emotion Research Conference: DEATH, MOURNING AND THE MEMORY POLITICS IN ASIA、全南大学校湖南学研究所(韓国)、2015.6.19
- 海外、Akira Nishimura, “On the Relation of Yasukuni Jinja Shrine and the Recovery of Fallen Soldiers’ Remains,” XXI World Congress of the International Association for the History of Religions、エアフルト大学(ドイツ)、2015.8.24
- 海外、Akira Nishimura, “Double-layered pilgrimage: commemorating fallen soldiers on the occasion of visiting Buddhist holy sites,” XXI World Congress of the International Association for the History of Religions、エアフルト大学(ドイツ)、2015.8.24
- 国内、西村明、「戦後における戦跡巡拝と仏跡巡拝の重なりについて」、日本宗教学会第74回学術大会、創価大学、2015.9.6
- 国内、Akira Nishimura, “Two Types of the War Dead and their Commemorations in Japan,” 国際ワークショップ(ウメサオ・スタディーズ・インターナショナル)「戦争とその継承—展示、経験、死者」、京都大学人文科学研究所、2016.3.6

(4) 予稿・会議録

- 国内会議、西村明、「越境する『導師』たち—戦跡慰霊に対する仏教者の関わりについて」、龍谷大学アジア仏教文化研究センター2014年度第2回国内シンポジウム、龍谷大学、2014.5.31
- 『アジア仏教の現在VI 仏教と死者のゆくえ—近現代の日本からの展望』、pp.49-67、2014

(5) 会議主催(チェア他)

- 国内、「戦争死者慰霊の関与と継承」研究プロジェクト第7回研究会(共催：戦争社会学研究会・関東例会、科研費基盤研究B「連合国のアジア戦後処理に関する宗教学的研究—海外アーカイブ調査による再検討」(研究代表者：創価大学中野毅))、チェア、東京大学本郷キャンパス法文1号館1階113教室、2014.11.1
- 国内、「宗教と社会」学会第23回学術大会、実行委員、東京大学本郷キャンパス、2015.6.13~2015.6.14

(6) 翻訳

共訳、Keith L. Camacho, “Loyalty and Liberation,” 西村明・町泰樹、『Cultures of Commemoration: The Politics of War, Memory, and History』、『思想』、no. 1096、188-213 頁、岩波書店、2015.8

(7) 共同研究(産学連携除く)

国内、参画、京都大学人文科学研究所、「日本宗教史像の再構築」、2014～

国内、参画、国立民族学博物館、「宗教人類学の再創造—滲出する宗教性と現代社会」、2013～2016

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、駒澤大学、「宗教学研究」、2014.4～

特別講演、東西大学校(韓国釜山)、「名もなき死者への想像力—戦争死者慰霊の越境性—」、2014.11

非常勤講師、筑波大学、「宗教学とフィールドワーク」、2015.2

非常勤講師、鹿児島大学、「文化政策特論「地域における文化的実践と価値意識」」、2015.2

ゲスト講師、神戸大学、「The Two Sources of the postwar commemorations for the war dead in Japan: focusing upon the atomic bomb dead in Nagasaki,」2015.7

(2) 学会

国内、日本宗教学会評、評議員 2013.9～、編集委員 2013.9～

国内、戦争社会学研究会、運営委員、2014.3～、編集委員長、2016.4～

国内、現代民俗学会、一般会員、2014.7～

国内、「宗教と社会」学会、会長、2015.6～

(3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

公益財団法人国際宗教研究所、国際宗教研究所ニュースレター編集委員、2015～

宗教文化教育推進センター、連携委員、2013～